

たまのよこやま

速報

東京・神奈川・埼玉

埋蔵文化財関係財団

公開セミナー報告

平成30年度企画展示

始まる!!

遺跡から見た『古代武蔵・相模の社会』

「東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業 公開セミナー」は、東京都埋蔵文化財センター・かながわ考古学財団・埼玉県埋蔵文化財調査事業団による連携事業として、平成 20 年度から毎年開催しています。セミナーでは、各公益財団が行った発掘調査や研究の成果を広く皆様にお伝えするとともに、財団の業務や役割についてもご理解を深めていただくことを目的に、三都県が持ち回りでっており、今年度は第 10 回目を迎えました。

今回は、奈良時代から平安時代にわたる「古代」を対象に「遺跡から見た古代武蔵・相模の社会」をテーマとし、平成 30 年 2 月 3 日（土）に川崎市のサンピアンかわさき（川崎市立労働会館）大ホールにて開催しました。古代武蔵国は、埼玉県・東京都・神奈川県にまたがる大国であり、このことから三都県が古くより密接な関係にあったことがうかがわれますが、今回は「土器」「集落・生産」「墓制」をキーワードに、最近の発掘調査成果を取り入れながら、当時の人々が暮らした社会の様子を探ろうというものです。

セミナーは、テーマの趣旨説明、「土器」「集落・生産」「墓制」についての三都県各公益財団職員からの基調報告、酒井清治先生（駒澤大学）による記念講演、そしてミニシンポジウムという内容でした。

1. 「土器」

「土器」については、鶴間正昭氏（東京都埋蔵文化財センター）が「土器から探る武蔵・相模の古代社会」という題で、武蔵・相模における須恵器・土師器生産と流通について報告を行いました。須恵

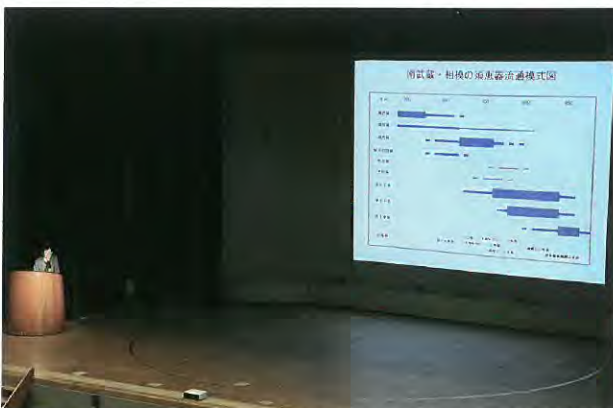
器は、北武蔵で大規模で継続的な生産が行われ、南武蔵・相模まで供給される一方、南武蔵・相模では派遣工人による短期的な生産は行われたものの、東海地方や北武蔵からの流通が主体であったことが指摘されました。

また土師器では、「国別土器」「地域別土器」と呼ばれる各地特有の特徴を持った土器が成立します。その特徴には宮都の土器や金属器との類似性が見られるとともに、これらの土師器は武蔵・相模国内だけでなく、広く東北地方にまで流通しており、こうした背景には律令国家との政治的関係や地域間での交流が窺えるとのことでした。

2. 「集落・生産」

「集落・生産」については、魚水環氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）が「職人技の夜明け」という題で、古代の様々な生業の中で食料生産・紡績・鍛冶・陶工を取り上げ、生産関連遺構（製鉄炉・炭焼窯・須恵器窯・土師器焼成坑）と生産関連遺物（農具・漁具・紡錘車・編物石）を分析しながら、古代の集落と生産の関係を考察しました。

分析の結果、古代における生業・生産のあり方は地域や遺跡ごとに様々であり、このことから、当時の人々が地域や遺跡ごとの環境や特徴（立地・資源の有無など）を生かし、生産組織やシステムを徐々に整えながら、特定の生業に特化していく様子を窺うことができるとのことでした。そして、古代を「職人の始まり」とまでは言えないまでも、「モノづくりを生業にする人々の技術の始まり」の時代であると位置付けました。



鶴間正昭氏（東京都埋蔵文化財センター）

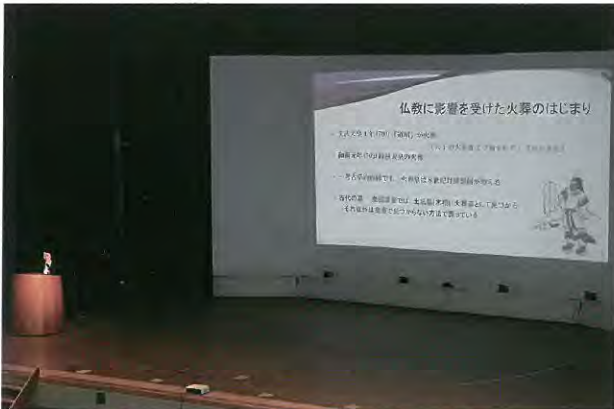


魚水環氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

3. 「墓制」

「墓制」では、西田真由子氏（^{にしだまゆこ}かながわ考古学財団）が「死からみえる古代社会—火葬墓集中域南武蔵と謎の相模—」という題で、古代の火葬墓を取り上げ、武蔵・相模の地域性を比較しながら、「火葬墓」という新たな墓制が広がっていく背景を探りました。

その結果、火葬墓は8世紀前半以降、特に9世紀後半～10世紀代を中心として造営されるとともに、北武蔵・南武蔵・相模においては火葬墓の分布・^{そうこつき}蔵骨器（遺骨を収める容器）・^{ひそうしゆ}被葬者などについて、それぞれ地域性が認められました。また、造営の背景については一様とは言えないものの、その一つとして仏教思想の浸透とともに、土地の開墾と私有化の進展が考えられるとのことでした。



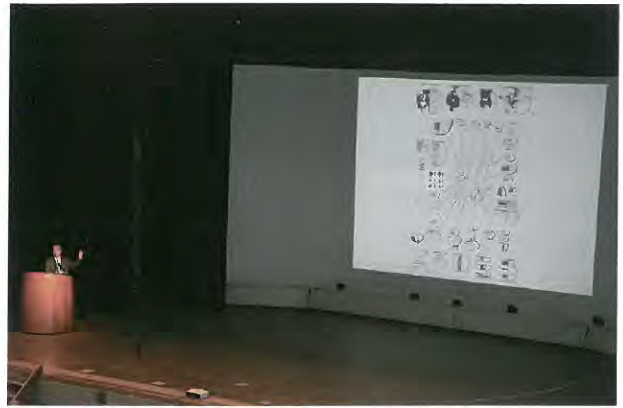
西田真由子氏（かながわ考古学財団）

4. 「渡来人」

記念講演では、駒澤大学の酒井清治先生をお招きし、「考古学からみた関東の渡来人」という題でご講演をいただきました。

『^{にほんしよき}日本書紀』や『^{しよくにほんき}続日本紀』などの文献史料には、朝鮮半島からの渡来人が武蔵・相模を含む関東地方に多くいたことが記されています。渡来人は当時の最新技術をたずさえてきた人々でもあり、須恵器・瓦生産、製鉄・鍛冶、金工技術、馬匹生産など、武蔵・相模の古代社会においても大きな役割を果たしたものと考えられます。

酒井先生には、5世紀代と7世紀以降の2時期における、土器（陶質土器・^{かんしきけい}韓式系土器）と瓦から見た渡来系文物の分布・伝播ルート・変遷などについてのお話とともに、『日本書紀』『続日本紀』にみられる渡来人移住記事や建郡記事（武蔵国高麗郡・新羅郡）との関連について、朝鮮半島ならびに関東各



酒井清治先生（駒澤大学）

地の膨大な資料を基に解説をいただきました。

最後のミニシンポジウムでは、基調報告と記念講演を受け、「①^{かなが}地方官衙・畿内との関係」「②渡来人との関係」「③地域性」の3つのテーマについて、討議を行いました。いずれも大きなテーマであり、短時間の討議の中でまとまるものではありませんが、「土器」「集落・生産」「墓制」それぞれを通して「地方官衙・畿内との関係」「渡来人との関係」を垣間見ることはでき、また「地域性」についても、北武蔵・南武蔵・相模といった大きな地域性を確認することができましたが、その背景も含め、今後の課題も多いということが明らかになりました。

当日は300人を超える方々にお越しいただき、公開セミナーは盛況のうちに開催することができました。この場を借りてお礼を申し上げますとともに、今回のセミナーが武蔵・相模の古代社会に対する皆様のイメージを^{ふく}膨らませる一助となれば、我々の目的は達成できたかと思っております。

来年度の公開セミナーは、かながわ考古学財団の主催で開催される予定となっています。次回も大勢の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（大西雅也）



ミニシンポジウム

田端西台通遺跡（北区遺跡No. 41）は東京都北区田端2・3・5丁目に所在する遺跡で、武蔵野台地の東端部、本郷台上に広がっています。

今回の発掘調査地は遺跡範囲の南西部、西側に谷を臨む高台の縁辺部に立地しています。平成30年3月現在、調査範囲全体の1/3ほどの調査が完了し、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代の遺構と遺物を多数検出しています。これらの調査成果の中でも特に注目されるのが、弥生時代の「^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓」と平安時代の「^{しょうしつかかく}焼失家屋」の検出です。

方形周溝墓とは、弥生時代から古墳時代はじめにかけて造られた地域の有力者の墓です。周囲に四角く溝を掘り、その内側に土を積み上げ、中央部に被葬者を埋葬しました。方形周溝墓は、溝を共有しながら隣合うように複数基が並んで検出されることが多いですが、17号方形周溝墓は、調査区の北側で1基のみが単独で検出されました。中央部にあったと思われる埋葬施設は残っておらず、「コ」字状の周溝のみが分かりました。田端西台通遺跡では、これまでの発掘調査でもたくさんの方角周溝墓が検出されています。今回発見された方形周溝墓はそれら

の中でも最北西部に位置することから、弥生時代における墓域がこれまで知られていた範囲よりも更に北西側に広がることがわかりました。

奈良・平安時代では、^{ほったてはしらたてものあと}掘立柱建物跡5棟や竪穴建物跡6基を検出しています。これらのうち、68号竪穴建物跡は、平安時代（8世紀末～9世紀前半）のもので、長軸約5.5mの半地下式の建物でした。床面では、焼けて炭となった木材が建物の中心部から壁際に向かって放射状に倒れている様子を確認できました。また、建物内で使われていたものと思われる^{すえき}須患器が、倒れた柱の下敷きになった状態で出土しました。床面が熱により変色・変質していたことから、



写真1 17号方形周溝墓



図1 検出遺構配置図（平成30年3月時点）

火災にあって廃絶した焼失家屋であったと考えられます。

この建物跡の北東部壁際から、「U」字形の鉄製品が2点出土しました。これらは、当時の農耕具であった鍬もしくは鋤（現代のスコップに相当）の先端部に装着して使用されたと思われるものです。内側部分には木質が残っていたことから、鍬・鋤本体に装着されたままの状態 で建物内に置かれていた可能性があります。

鉄製の鍬・鋤先の製作・加工には高い技術が求められることから、平安時代当時においてこれらはとても貴重であったと考えられます。その稀少性と性能の高さから、誰もが持ち、使用できたのではなく、もしかすると集落内でも力を持った人がこれらを所有し、特別な場で使用したのかもしれませんが。いずれにせよ、今回のように一つの建物跡から複数点が検出されたことは非常に珍しい事例であると言えます。また、68号竪穴建物跡は、火災によって廃絶した可能性が高いことから、建物が使用されていた時に近い状態で、鍬・鋤先が発見された可能性も

考えられます。今回の鍬・鋤先の検出状況は、これらの特別な農耕具が当時どのように保管されていたかを考える上でも重要な資料であると言えるでしょう。

田端西台通遺跡では、現在も日々新たな発見が続いています。今後の発掘調査成果にもご期待です！

（岩井聖吾）

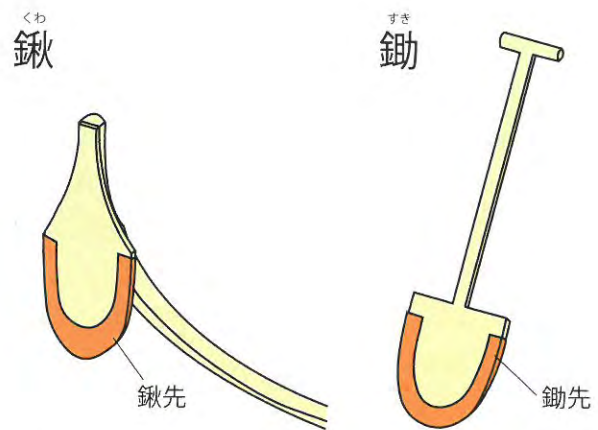


図2 鍬先・鋤先模式図



写真2 火災により廃絶した68号竪穴建物跡



写真3 壁際から出土した鉄製鍬・鋤先（68号竪穴建物跡）



写真4 焼け落ちた柱と須恵器（68号竪穴建物跡）

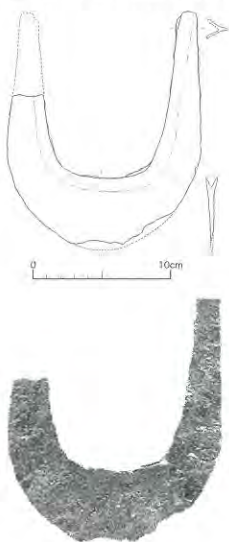
1982年7月、八王子市南大沢での遺跡調査を終えた私達のグループは、次の担当遺跡がある稲城市大丸へ向かいました。多摩ニュータウン地域の西の端から東の端へ。その春に新規職員として採用されたばかりの身にとってこの移動は、ニュータウン地域の広大さを実感させられるものでした。

担当するNo.362・363遺跡は、割と大きく開けた谷中の、緩やかな斜面に立地していました。その分、真夏の炎天下での発掘作業は木陰もなく、随分と厳しかったことを覚えています。地蜂に刺され、しばらくはこの腕が痛痒いたがゆかかったことも思い出されます。

それでも吹く風に季節の移ろいを感じ始めたある日、調査区の隅で1軒の竪穴住居跡が見つかりました。一辺4m足らずの正方形で、東壁の中央にカマドがありました。出土した須恵器・土師器から、奈良時代前半に属すると判断しました。

住居跡の調査を始めてから2日目の午後、何やら重量感のあるかたまりが、ポロリと顔を出しました。こびりついた土をはがしてみると、どうやら鉄製の何かのようです。長さは15cmほどで、途中で折れている状態でした。断面は「Y」字のように見えました。

さて、これは何なのか？ 頭の中で古代の鉄製品をあれこれ思い浮かべ、「あっ！」と気づいて、その場に座りこんでしまいました。(脇で見ていた先輩職員は、「ぎゃっ！」と叫んで、転げまわったと言うのですが……)



出土した鋤先と使用想定図

これはどうやら、木製農耕具である鋤すきの先端に着ける「U字形鋤先」に違いない。すぐさま周

りを掘り広げてみると、刃先部分が見つかり、先に出土したものにピッタリと接合して、まさに「U字形」と呼ばれる姿を認めることができました。

何をそんなに驚いたかといえ、この鉄製品、古代の遺跡において、まれにしか見つからないものなのです。多摩ニュータウン遺跡群でも、これが初めての出土となりました。

もちろん、珍しいから貴重であるというわけではありません。ありふれた土器の破片であれ、その持つ歴史的な価値に優劣はつけられませんが、しかし思ってもいかなかったものとの突然

の対面は、30数年を経た今でも、強烈な印象として残っています。

さて鉄製U字形鋤先は当時、誰もが持てるものではなかったようで、集落の中でも限られた有力者だけが所有していたという考えもあります。ではこの稲城の地に、いったいどんな人物が住んでいたのでしょうか？

本遺跡から低い尾根をひとつ越えたすぐ北側には、同時期に調査が始まったNo.513遺跡(図中●印)があります。かつて中世の山城(大丸城)があった場所として有名ですが、奈良時代には武蔵国府・国分寺の瓦を焼いた登り窯が、多数築かれていたことでも注目されています。

その窯で土器や瓦が焼かれ始めるちょうどその頃、

その窯で土器や瓦が焼かれ始めるちょうどその頃、



多摩ニュータウンNo.362・363遺跡位置図

この鋤先を持つ住居が営まれているのです。両者は無関係ではないだろう。そんなことをぼんやりと思いながら、10月には、またまた次の発掘現場へ向ったのでした。

(武井利道)

『蒼海わたる人々』

考古学から見たとうきょうの島々』へのご招待

東京都には、実に 330 もの島があることをご存知でしょうか。伊豆諸島に小笠原諸島、さらには日本の最南端である沖ノ島島や、最東端の南鳥島も東京都に属しています。そして、これらの島の多くに、過去に人々が残した遺跡が見つかります。東京都による遺跡分布調査をはじめ、多くの機関による調査がなされ、島の歴史を明らかにする貴重な資料が得られてきました。

今年度の企画展示は、これら島の遺跡調査をテーマとした『蒼海わたる人々 考古学から見たとうきょうの島々』。普段は各島などで保管・公開されている貴重な資料を一堂に集めて、皆様にご覧いただきます。今回は、展示の構成と見どころについてご案内いたします。

I 海の幸を求めて

島には豊かな資源があり、それらを人々は昔から求めてきました。例えば、神津島で採れる黒曜石は、関東各地の旧石器時代・縄文時代の遺跡から見つかります。他にも、弥生時代のオオツタノハ製貝輪、古代の海産物加工用の鍋など、島で得られる恵みに関する資料をご紹介します。



マーシャル諸島のカヌー模型
(学習院大学史料館所蔵)

II 島に生きる

「島」という環境の中で、先人たちはどのように暮らしを送っていたのでしょうか。ここではその一端を示す資料を集めました。縄文時代の遺跡から見つかる貝



ココマ遺跡オオツタノハ
(三宅村教育委員会所蔵)

や魚・動物の骨からは、人々がどんなものを食べていたのかわかります。さらに骨や角の加工品からは、豊かにくらすための知恵と工夫もうかがえます。

島にある火山の噴火の脅威に対し、人々が祈

りを捧げた痕跡もみつっています。そこからは島では手に入らない土師器や須恵器など貴重な品々を捧げ、平穏を祈る姿がうかがえます。



サメの歯製垂飾
(八丈町教育委員会所蔵)

III 海でつながる世界

島の縄文時代の遺跡からは、近畿・東海から東北に至るまで、様々な地域とのかかわりを示す資料が見つっています。

さらに驚くべきは、北硫黄島の石野遺跡や八丈島の各遺跡から見つかった土器、石器や貝製品です。これらの資料からは、なんと遠く南洋諸島とのつながりが見えてきたのです。

日本から数千kmも離れた南洋諸島から、人々はどのようにして渡ってきたのでしょうか。その謎にせまるヒントとして、約 100 年前の民族資料もご紹介します。中でも、マーシャル諸島で作られたアウトリガーカヌーの模型や海図は、古の南洋の人々が、様々な工夫を重ねて、広大な太平洋



石野遺跡出土石器
(東京都教育委員会所蔵)

の島々を渡りあっていたことを教えてください。

以上、『蒼海わたる人々』の概要をご案内いたしました。しかし、「百聞は一見に如かず」とも申します。知られざるとうきょうの島々の歴史物語を、ぜひ、当センターにお越しいただき、皆様の目で確かめていただければ幸いです。(佐藤 悠登)

平成30年度 行事のご案内

※印は新規行事

催事名	対象/人数	日 時		備考	
東京都埋蔵文化財センター主催 文化財講演会	一般/先着100名	第1回6/30(土) 第2回9/29(土) 第3回11/23(金・祝)	午後 13:30~15:30	当日受付	
東京都埋蔵文化財センター・ 多摩市教育委員会主催 文化財講演会	一般/先着100名	第1回2/6(水) 第2回2/13(水) 第3回2/23(土)	午後 13:30~15:30	当日受付	
遺跡発掘調査発表会	一般/先着100名	3/21(木・祝)	午後 13:30~15:30	当日受付	
展示説明会	一般/参加自由	3/21(木・祝)	午前 10:30~11:30	当日受付	
映像上映会	親子・一般/参加自由	1/19(土)	午後 13:30~15:30	当日受付	
「縄文の村」自然観察会	一般/20名	①4/14(土) ②10/6(土)	午前 10:00~11:30	往復はがき又はWebで申込み ①4/2 ②9/25必着	
縄文土器作り教室	①②親子15組 (小学4年生以上) ③一般25名	製作 ①7/21(土) ②7/22(日) ③9/1・2(土・日)	野焼き ①8/11(土) ②8/11(土) ③9/22(土)	製作 午前 9:30~午後 16:00 野焼き 午前 9:30~午後 13:30	往復はがき又はWebで申込み ① ②7/9 ③8/20必着
土偶作り教室	①親子15組 (小学4年生以上) ②一般30名	①7/25(水) ②11/17(土)	①午前 10:00~12:00 ②午前 10:00~午後 15:30	往復はがき又はWebで申込み ①7/11 ②11/5必着	
縄文アクセサリ作り教室	①③一般30名 ② 親子15組 (小学4年生以上)	①7/7(土) ②8/22(水) ③1/26(土)	①・②午前 10:00~12:00 ③午後 13:30~15:30	往復はがき又はWebで申込み ①6/25 ②8/8 ③1/15 必着	
古代勾玉作り教室	親子15組 (小学4年生以上)	8/15(水)	午前 10:00~12:00	往復はがき又はWebで申込み 8/1必着	
コハク勾玉作り教室	①②一般20名	①6/2(土) ②10/6(土)	①午前 10:00~12:00 ②午後 13:30~15:30	往復はがき又はWebで申込み ①5/21 ②9/25必着	
古代糸作り教室	一般20名	6/16(土)	午前 10:00~午後 15:00	往復はがき又はWebで申込み 6/4必着	
古代布作り教室	①一般30名 ②親子15組 (小学4年生以上)	①5/12(土) ②7/25(水)	①午前 10:00~12:00 ②午後 13:30~15:30	往復はがき又はWebで申込み ①5/1 ②7/11必着	
火おこし道具作り教室	親子15組 (小学4年生以上)	8/22(水)	午後 13:30~15:30	往復はがき又はWebで申込み 8/8 必着	
江戸の泥めんこ作り	親子8組16名 (小学4年生以上)	8/15(水)	午後 13:30~15:30	往復はがき又はWebで申込み 8/1必着	
トンボ玉作り教室	各時間帯 一般6名	①5/26(土) ②9/15(土) ③2/2(土)	午前 9:30~11:00 午前 11:00~午後 12:30 午後 13:30~15:00 午後 15:00~16:30 の希望する時間帯	往復はがき又はWebで申込み ①5/14 ②9/3 ③1/21必着	
縄文の貝輪作り教室	一般15名	9/8(土)	午後 13:30~16:00	往復はがき又はWebで申込み 8/27必着	
夏休みワークショップ 「縄文バクバクを作ろう!」※	親子15組(小学3年生以下)	①・②8/4(土)	①午前 10:00~12:00 ②午後 13:30~15:30	往復はがき又はWebで申込み 7/23必着	
縄文食体験	①一般20名 ②親子10組	①10/20(土) ②10/21(日)	①午前 10:00~午後 13:00 ②午前 10:00~午後 13:00	往復はがき又はWebで申込み ①②10/9 必着	
考古学実習①-土器拓本・断面図-	一般10名	10/13(土)	午前 10:00~午後 15:00	往復はがき又はWebで申込み 10/1 必着	
考古学実習②-石器の作り方-※	一般10名	11/3(土・祝)	午後 13:00~午後 16:00	往復はがき又はWebで申込み 10/22 必着	
考古学実習③-石器観察・実測-	一般10名	11/10(土)	午前 10:00~午後 15:00	往復はがき又はWebで申込み 10/29 必着	
考古学実習④-カマド・古代食体験-	一般・親子計20名	12/1(土)	午前 10:00~午後 15:00	往復はがき又はWebで申込み 11/19必着	
縄文ワクワク体験まつり	参加自由	5/3(木・祝)・4(金・祝)	午前 10:00~午後 16:00	当日受付(勾玉作りは当日予約)	
遺跡庭園であつたまろう!	参加自由	12/9(日)	午前 10:00~午後 15:00	当日受付	
考古学相談室(夏休み自由課題)	参加自由	通年(土日は除く)	午前 10:00~午後 16:00	受付随時	

●往復はがきでのお申込みは、行事名・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入のうえ、〒206-0033 多摩市落合1-14-2 東京都埋蔵文化財センター「〇〇〇(行事名)」係宛まで。Webでの申込みは、下記センターホームページ内のイベント申込入力フォームによりお申込みください。応募者多数の場合は、抽選になります。
●「一般」は中学生以上、「親子」は小学4年生以上の親子(一組は3人まで 但し、「江戸の泥めんこ作り」は除く)。一般対象の行事は、お一人につき1通の往復はがきが必要です。親子対象の行事は、代表者のほか、必ず参加者全員の氏名・年齢もご記入のうえ、お申込みください。
●ご記入いただいた個人情報、該当事業実施のための案内のみに利用します。利用目的にご同意の上、お申込みください。

お問い合わせ先(平日のみ9:00~17:00): 東京都埋蔵文化財センター 経営管理課広報学芸担当 : 電話042-373-5296

ホームページアドレス: <https://www.tef.or.jp/maibun/>

※今号の表紙: 北区田端西台通遺跡 68号竪穴建物跡(平安時代前期)の調査風景 ここから鉄製農具2点が発見された



たまのよこやま 112

2018年3月30日発行

東京都埋蔵文化財センター 〒206-0033 多摩市落合 1-14-2 TEL 042-373-5296 <https://www.tef.or.jp/maibun/>